

## 1999（平成11）年度経済学部カリキュラム 改革検討に関する資料

経済学部 永山庸男

- 1 経済学部は、1999年度以降のカリキュラム編成について、現在検討を行っているところである。このため、1998年度カリキュラムは、教養教育、専門教育ともに現行のまま実施することとしている。
- 2 1999年度以降の経済学部カリキュラムは、経済学科と経営学科の2学科に区分したカリキュラム体系のもとに実施される方向で検討を行っている。このカリキュラム体系として、2学科コース別のコア科目、学部学科に共通する基礎科目、教養と専門にわたる外国語科目の配置、少人数制教育の演習・卒業論文を重視した教育を目指す方向を検討している。全体的には、経済学と経営学の専門基礎教育を情報化、国際化の観点から行う内容を検討することになる。
- 3 経済学部が採用してきた従来の自由選択制に代えて、コース別コア科目を導入することを検討している。この結果、選択必修制のウェイトが高くなることも予想される。
- 4 外国語教育については、4年間のカリキュラム体系を検討したい。教養科目の他に、専門科目としてどのようなことが可能かについて検討を行いたい。検討の結果がでるまでは現行で行う。
- 5 セメスター制の導入を実施する方向で検討を進めている。8セメスターのもとで学部4年間一貫したカリキュラムを編成したい。

1997（平成9）年7月22日

（注記）以上は、1997（平成9）年7月24日に開催された大学教育開発研究センター第7回ワークショップ「新潟大学におけるカリキュラムの見直し」に際して、木下前経済学部長によって提出された文面をそのまま掲載したものである。本文提出段階（1998年3月13日）

で、経済学部で検討している次年度以降のカリキュラムは成案に至っていない。